

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第27回

うたづちょう
香川県宇多津町消防団

今回は、東京から新幹線で約4時間、岡山県から瀬戸大橋を渡り、香川県宇多津町をお訪ねしました。

宇多津町消防団は常備消防にも劣らない車両や資機材を配備しているということで、県外からの視察を受けることもあるそうです。

今回は、実際に宇多津町消防団の有する装備

をお見せいただき、資機材の扱いにまつわるお話などについてお聞かせいただきたいと思います。それでは、さっそく宇多津町の谷川俊博町長と宇多津町消防団の住野正文団長、宇多津町危機管理課の西川係長からお話を伺いましょう。



宇多津町消防団の皆さん

宇多津町の概要について

ダニエル まず初めに、宇多津町について、簡単にご紹介をお願いします。

谷川町長 宇多津町は、瀬戸内海に面した香川県のほぼ中央にあり、人口18,487人(平成30年11月1日現在)、総面積8.10km²の県内で一番小さい町です。しかしながら、県内で最も人口密度が高く、賑やかで若々しい県下一の経済発展と人口増加、出生率を誇る町です。

7世紀後半には、海上交通の港(津)、「鵜足津」と呼ばれる自然港ができており、室町時代には足利義満の側近であった細川頼之公の居館が置かれ、管領の中心地として発展しました。江戸時代には高松松平藩の米蔵がおかれる藩西端の港としても栄えました。

また、温暖で雨が少なく、日照時間が長いという瀬戸内式気候を利用して、江戸時代中期から昭和47年の塩田廃止まで、全国屈指の塩のまちでした。

古くから政治、経済、文化の拠点として発展を遂げてきた宇多津町は、瀬戸大橋開通を機に、広大な塩田跡地が新宇多津都市となり、新しいまちに生まれ変わりました。

ダニエル なるほど。塩田での塩づくりが昔の主な産業だったのですね。海に近くて雨が少ない気候ならではの産業ですね。

塩田の跡地は、現在は新興住宅地となっているのですか？

谷川町長 はい。宇多津町は高松市からの交通の便も良いため、働き盛りの世代のベッドタウンとして、塩田跡地には続々と中高層のマンションが建設されています。

宇多津町消防団について

ダニエル では次に、宇多津町消防団の概

要を教えてください。

西川係長 宇多津町消防団は、昭和22年に宇多津町警防団から、現在の宇多津町消防団に改称し、発足しました。当初は、五分団編成、団員数152名でしたが、現在は六分団制に組織変更され、平成30年4月1日では団員数101名(定数108名)で活動しております。

当町におきましては、事務委託先である常備消防(坂出市)がありますが、宇多津町消防団は「自らのまちは自らで守る」を信念に、また、団長のもと「現場第一主義」をスローガンに日々消防、防災活動に努めております。

ダニエル 消防は坂出市に委託しておられるのですか？

住野団長 はい。消防・救急業務については隣接する坂出市に委託しております。

ダニエル ということは、いわゆる常備消防がない地域なのでしょうか。

住野団長 そうですね。火災や事故が発生した場合には、坂出市から消防や救急が出動することになります。

宇多津町消防団の装備の紹介

ダニエル 宇多津町消防団は、車両や資機材が充実されているとお伺いしました。

住野団長 はい。本日は、実際にご覧になっていたのが良いと思ひまして、車両や資機材の一部をご用意しております。

ダニエル 実物を見せていただけるんですか！それは大変有難いですね。

住野団長 宇多津町消防団は水槽付消防ポンプ車1台(水Ⅱ・圧縮空気泡消火装置CAFS装備)、小型水槽付消防ポンプ車1台(水槽容量0.7t、A・B各火災対応泡消火薬剤積載、薬剤混合比1%)、水槽車1台(水槽容量8t)、消防ポン

プ車 (CD-1型) 7台、小型クレーン (3t) 付き資機材搬送車1台、資機材搬送車、指揮車1台、可搬ポンプ1台が配備され、そのうち4台の車両には3～5tの電動ウインチを装備しております。



水槽付消防ポンプ車



小型クレーン付き資機材搬送車

ダニエル これらはすべて宇多津町消防団が有する車両なのですか。

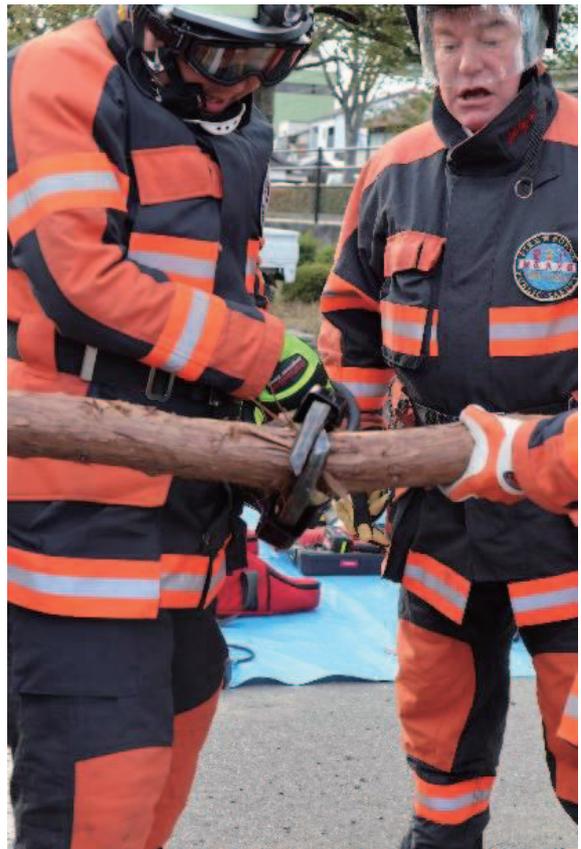
住野団長 はい。これらの車両を、状況に応じて使い分けています。

次に、資機材についてもご紹介したいと思います。宇多津町消防団には、エンジンカッター、油圧式コンビツール2基 (うち1台は耐電式)、電動式カッター、電動スプレッター、空圧式重量物排除器具などの重装備も配備され、火災のみならず、地震・風水害、交通事故にも対応することができます。資機材の配備については日本の消防団の中で、一、二を争うものであると

自負しております。

ダニエル 確かに、これほどの装備をお持ちの消防団は珍しいと思います。

住野団長 本日は、こちらの資機材の中から、実演してみたいと思います。



電動カッターの実演

ダニエル すごいパワーですね。丸太があっという間に切れてしまいました。

住野団長 鉄のフレームも切断することができます。屋内で動けなくなった高齢者の方を救助するため、窓の格子を切断するのに使用したこともあります。

ダニエル すごいですね。訓練だけでなく、実際の現場で使用したことがある団員さんは少ないのではないかと思います。

資機材の体験

ダニエル こちらの車両にはタンクが付いていますね。

住野団長 この車両には、CAFSを積載しています。CAFSは水と泡薬剤を混合した溶液に圧縮空気を注入して泡を生成し、ノズルから放射する装置です。泡が建物等の垂直な壁にもへばり付き、長く留まるため、水のように流れ落ちてしまうことはありません。

先ほど申し上げたとおり、宇多津町は中高層のマンションが増加しています。マンションの中～上層階で火災が発生した場合、CAFSによって消火すると、泡が火元の階に留まるので、下の階への水損を防ぐことができます。また年間降水量が少なく、水不足に陥りやすい地域ですから、より少ない量の水で鎮火できるということで大いに役立っております。

ダニエル なるほど。地域の気候や町の発展に対応して、こうした装備が必要となってきたわけですね。

住野団長 よろしければ、ダニエルさんも実際にCAFSを使ってみますか？

ダニエル えっ、いいんですか！？

住野団長 せっかくなので、ぜひ体験してみてください。

ダニエル それでは、お言葉に甘えて、体験させていたいただきたいと思います。



CAFSの放射を体験するダニエル氏

ダニエル おお！思ったより軽いですね。

住野団長 泡を噴射しますから、ホース内を水のみが流れる時の重量と比べると非常に軽くなりますし、反動も少ないです。

ダニエル ありがとうございます。貴重な体験をさせていただきました。

どうしてこのような車両や資機材を配備しようと思ったのですか？

住野団長 前に述べたとおり、宇多津町には常備消防がありません。南海トラフ地震のように広域の被害が想定される災害が発生した場合、周囲の消防は、自分の市町の被害に対応するのに手いっぱいになってしまうことも考えられます。そのような場合、自分たちのまちは自分たちで守るしかありません。また、普段の出動においても、宇多津町消防団は現場到着が早い分、火勢が強い段階での消火活動が強いられ、団員の安全が脅かされることも少なくありません。そのようなとき、消防団員は、真っ先に危険な現場に入って活動することになりますが、消防団員が怪我をしてしまっただけでは、誰も救助する人がいなくなりますから、まずは団員が安全に活動できるよう、安全装備品を積極的に導入する必要があると思いました。

ダニエル それは大変重要なことだと思います。団員の皆さんは活動中に危険な状況に晒されることもあるでしょうから、装備を充実させることで、まずは団員さんの身の安全を確保するのが大事ですね。

住野団長 そうですね。

ダニエル やはり、こうした資機材をしっかりと扱えるようになるには、相当な訓練が必要なのですか？

住野団長 そうですね。普段からの訓練も重要ですが、やはり現場での経験が一番身につ

きますから、火災現場や事故現場などで必要があれば積極的に資機材を使用するようにしています。

災害の対応について

ダニエル 宇多津町の消防団は過去に災害や火災が発生した際の消防団の活動について教えてください。

西川係長 宇多津町では、近年、幸いなことに、災害や火災による大きな被害はありません。

ですが、台風やゲリラ豪雨等の災害時には、土のうの作成、設置、危険箇所の巡回等を行っております。土のうは、長期利用、保存できるよう通常時は袋を二重にして作成していて、緊急時には現場の土砂を利用して作成設置し、臨機応変に対応しております。また、強風、大雨による倒木があり、道路が封鎖されることが多々ありますので、その際は、チェーンソー、油圧器具等を駆使し、復旧作業に当たっております。

ダニエル 先ほど見せていただいた電動カッターやチェーンソーを使うこともあるわけですね。

西川係長 はい。それから、火災出動については、団員の初動が早く、町が小さいことも手伝って、火災発生時には迅速に到着することができます。

また、火災発生時にもっとも重要な初期消火活動については、水槽容量2tの水槽付消防ポンプ車、水槽容量8tの水槽車で計10tの水を積載した2台が消火にあたります。また、旧市街地内の道路復員が狭い現場へは、小型水槽付消防ポンプ車(CD-1型)が先行出動し消火にあたります。また、建物火災の際の屋内進入筒先についてはCAFSを活用し、水損防止に努めております。両ポンプ車両ともA・B火災に対応でき

る車両となっており、近年では、類焼、延焼にいたった事案はありません。また、住民の皆様の防火意識、各団員の予防消防活動により、ここ2年数ヶ月においては、建物火災は起こっておりません。

ダニエル では、宇多津町で一番心配される災害はどういったものがありますか。

谷川町長 30年以内に発生する確率が70～80%になった、南海トラフを震源とする巨大地震です。宇多津町における震度は6強と想定されています。そのため、毎年、地震等発生に備え、防災意識、発災時対応力向上のため、自治会を中心に総合防災訓練を実施しております。

ダニエル 四国は南海トラフ地震で大きな被害が出ると想定されていますから、住民の皆さんとも連携して訓練をしておくことが必要ですね。

西川係長 また、今年発生した7月豪雨のような想定外の集中豪雨、年々勢力を強める台風による災害も警戒しています。

ダニエル 香川県は雨が少ないことで有名ですが、やはり台風や大雨は警戒されているのですね。

住野団長 はい。やはり台風の通り道になることもありますし、今年は特に雨が多く、隣接する丸亀市では、風雨によって丸亀城の外壁が崩れたほどでした。したがって、宇多津町でも暴風雨に対する警戒感は年々高まっています。

ダニエル 確かに、今年の大雨の被害は大変でした。今後も警戒するに越したことはないですね。

住野団長 また、災害とは異なりますが、近年、心配しているのが、空き家問題です。全国的にも問題となっておりますが、宇多津町でも旧

市街地については、高齢化が進み、空き家が増えているのが現状です。

ダニエル 最近よくニュースで耳にするようになりましたが、消防団の人たちにとっても深刻な問題なのですか？

住野団長 空き家が増え、一人暮らしの高齢者の方が多くなると、火災が発生しても覚知するのに時間がかかります。覚知に時間がかかると、通報を受けてからすぐ出動しても、常備消防は隣の坂出市からの出動となりますので、現着する頃には火の勢いが強くなって、延焼する恐れも高まります。

ダニエル なるほど。誰も気づかぬうちに火が大きくなってしまふことがあるかもしれないですね。

住野団長 そういった事態を防ぐためにも、消防団の声掛けによる防火活動で、まずは火を出さないことを徹底していきたいと思っています。

ダニエル そうですね。空き家問題や高齢化問題を今すぐ解決することは難しいですから、やはり火災を起こさないようにすることが先決ですよ。それが、地域に密着した消防団の大きな役割だと思います。

防災対策について

ダニエル 宇多津町では、何か力を入れて取り組んでいる防災対策などはありますか。

谷川町長 宇多津町は、大きく分けると旧市街地と新宇多津都市で構成されています。それぞれの現状が異なりますので、防災の課題も異なります。

西川係長 旧市街地は家屋が密集して建っており、冬の強風、乾燥時に火災が発生すると大火になる恐れがあります。また、道幅が非常に狭

く、大型の消防車両が出火元に近づけない場合も想定されます。そこで、家屋密集地での火災を最小限に食い止めることを課題として、車両の配備、水利の確保等、現場での訓練もさることながら、机上での訓練も実施しております。



取材の様子

住野団長 一方で、宇多津町は高松市街からの交通の便が良いこともあり、高松市のベッドタウンとしてマンション等の需要が増えています。新宇多津都市については、出生率、人口密度ともに高く、中高層マンションの建設がまだまだ続いているのが現状です。現在、宇多津町では、そうしたマンションの建物火災への対応がひとつの課題となっております。実際に、50mmホースでマンション9階への送水を行ったこともあります。

ダニエル なるほど。昔の街並みが残っている区画と、マンションが立ち並ぶ区画では、抱える問題や対処の仕方がまるで違うのですね。

入団促進のための取組

ダニエル 消防団への入団促進のために取り組まれていることがあれば教えてください。

住野団長 団員数の減少が、全国的な問題となっておりますが、宇多津町消防団におきましては、幸い、本年11月1日地点では定数108

名に対して103名、定数の約95%の人材を確保しております。しかし、団員の平均年齢が約46歳と高くなりつつありますので、早急に若い人材を確保し、育成していくことが今後の課題となっております。

ダニエル 宇多津町は若い世代の人口が増えているとのことでしたが、それでも若い方の入団促進は難しいのですね。

住野団長 流入してくる方々は子育て世代が多く、育児に加えて消防団活動をするのは負担が大きいと感じる方も多いのだと思います。また、宇多津町は若い世代の人口が増えていますが、その分、昔ながらの地域のつながりが希薄になりつつあるのではないかとこのことを危惧しています。以前は知り合いや親戚の勧めで入団したりする方も多かったのですが、核家族化が進み、伝手を通じて入団される方がますます減っていくのではないかと案じています。

ダニエル そうですね。新しいマンションができて、子育て世代がたくさん住むようになると、今までのやり方では対応できなくなってくるかもしれないですね。

住野団長 でも、最近では消防車両を見るために、小さなお子さんを連れて出初式にいらっしゃる親子連れの方も多くなりました。そういったところで小さなうちから興味を持ってもらって、将来、団員として活躍してくれる人が増えればいいなと考えています。出初式など、折に触れて消防団を見知っていただき、地域に密着した消防団活動ができるようにしていきたいと思います。

対談を終えて

今回は、実際に資機材の実演を見せていただいたり、CAFSの放射を体験させていただくなど、迫力満点の取材でした。貴重な体験をさせていただき、宇多津町消防団の皆さんには、改めてお礼を言いたいと思います。実際に体験してみて、やはり消防団の皆さんにかかる負担は大変なものだと実感しました。現場では予想外のことが起きたりしますから、消防団員の皆さんには、ぜひ、装備を整えて安全に活動していただきたいと思います。宇多津町消防団の皆さんには、これからも町の頼れる存在として、頑張ってもらいたいです。(ダニエル・カール)



左から、西川係長、谷川町長、ダニエル・カール氏、住野団長、三木班長
(宇多津町消防団本部で撮影)